

平成26年7月25日

第30回 内海文化研究施設 季例会・公開講演会を開催します

広島大学大学院文学研究科附属内海文化研究施設では、下記の通り、第30回季例会・公開講演会を開催いたします。

今回は、京都精華大学教授の小椋純一先生をお迎えして、神社の植生の変遷についてご講演いただきます。日本の神社の植生は明治以降大きく変化しており、厳島神社も例外ではないそうです。大変興味深いテーマですので、皆さまお誘い合わせの上ご来聴ください。

【 演 題 】 神社の植生の変遷について

【 日 時 】 平成26年7月28日（月） 14時00分～15時30分

【 会 場 】 広島大学大学院文学研究科（文学部）B104 講義室 [東広島キャンパス]

【 講 師 】 京都精華大学教授 小椋 純一（おぐら・じゅんいち）氏

【 概 要 】

神社には大なり小なり何らかの木立のあるところが多い。その神社林の植生は、古くからあまり変わることなく続いてきたと思われることもよくあることであるが、文献や古写真や古絵図などをもとに多くの神社の例について調べてみると、その大部分はかなり大きく変化して今日に至っていることがわかる。また、とくに明治以降、神社林が大きく変化して今日に至っている理由については、文献から確認することもできる。

【 参 加 費 】 無料 ※予約の必要はありません。

【お問い合わせ先】

広島大学大学院文学研究科

妹尾研究室

TEL：082-424-6668

E-mail：yseno@hiroshima-u.ac.jp

広島大学文学研究科付属 内海文化研究施設

第30回 季例会・公開講演会

神社の植生の変遷について

日時：平成26年7月28日（月）

14時00分～15時30分

場所：文学研究科（文学部）B104号教室

講師：京都精華大学教授 小椋 純一 氏



【概要】 神社には大なり小なり何らかの木立のあるところが多い。その神社林の植生は、古くからあまり変わることなく続いてきたと思われることもよくあることであるが、文献や古写真や古絵図などをもとに多くの神社の例について調べてみると、その大部分はかなり大きく変化して今日に至っていることがわかる。また、とくに明治以降、神社林が大きく変化して今日に至っている理由については、文献から確認することもできる。